



進路指導部進学担当の檀田航大です。こんにちは。

暑いですが、夏は嫌いではないのですが、ジリジリと焼ける日光は苦手です。いかがお過ごしでしょうか？

学校に行き授業や部活動の毎日。しかし時間はどんどん進み、気がつくと夏休み。

そこで質問です。



高校卒業後あなたは進学・就職 どちらの道へ進みますか？

進学と答えたあなたは、「なぜ進学の道を選択するの？」と聞かれて選択理由が答えられますか？

「ただ何となく進学。」「まだ働きたくないから進学。」「進学すれば2年間または4年間は遊べるから。」「今やりたいことが特になくから進学。」そんな理由で選択するのなら、進学をやめた方が良いでしょう。

進学は、2年間または4年間自分から学びたいと思って進む場所です。高校で習ったことをさらに深く勉強していったり、新しい専門知識を増やしていったりします。そんなところに遊びに行く感覚・目的もなく行っても時間とお金を無駄にするだけです。

「将来〇〇の仕事に就きたい。だからそのために、進学して資格を取得・教養を深めたい。」のような将来を考えた理由でなくても、「◎◎の勉強が好きだから、もっと勉強したい。」「知らないことをもっと知りたい。」などの理由でも構いません。

今現在選択理由が答えられない人も夏休みの長い時間を使い、じっくりと自分自身を見つめ直してみたいはいかがでしょうか。そうすると本当の選択理由や、本当に自分が目指すべき道がわかるかもしれません。

鳥取にはあまり進学先がないため、進学者の多くは県外へ出ていくと思います。県外には多くの誘惑や、あなたを怠けさせるモノが出てくるかもしれません。おいしい食べ物や楽しそうな場所。また、高校の時より多くの自由な時間。それでも進学を決断した選択理由を思い出し、2年間または4年間を最後まで楽しみながら進んでください。



檀田 航大



失敗したことの無い人なんていないですよ。失敗することを「過ち」とも言います。「過ち」の定義をあなたはどのように考えますか？

過ちを改めざるこれを過ちという

昔、孔子がこのような言葉を残されました。孔子の伝えたいことがわかりますか？誰しもがちょっとした失敗や思い出したくもない失敗など、数えればきりなくあると思いますが、孔子は、そんな失敗も改めることができればそれは過ちではないと言っているのです。



失敗を改めることができないとはどのようなことでしょうか？自分の失敗を「人のせい」や「運が悪かった」「たまたまそうなった」など、安易にやり過ごしてしまったことがこれまでにありませんか。これが本当の過ちです。



過ちを犯す人は、「もしも〇〇なら～」、「自分だけが悪いのではない」などと失敗の理由を自分以外に求める傾向があります。複数の要因が重なり合って一つの失敗を生じるのですが、自分以外の要因は自分ではコントロールできないのですから、自分以外に目を向けている間は決して問題を解決することはできません。自分を取り得ることができた対応に目を向けてこそ初めて失敗を確実に回避することができるのです。

さらに、過ちを改善したと思っているだけで実際には改善していない場合があります。それは、「〇〇することができたら」とか「正しく対応できるよう努力します」など、改善するための条件をつけたり、感情面での改善を表明することです。これは条件が整わなくて改善できなかったとか、努力しようとしたけど改善できなかったなど、改善できなかったことへの言い訳を準備しているだけなのです。過ちに気づいたそのときに、改善を決意する意志が重要です。



失敗をしない人など誰もいません。失敗を過ちと言わなくてすむよう謙虚な態度で自分を見つめ、社会人として踏み出す準備をしてください。

あなたは1学期にどんな失敗をしましたか？

そして、そこから何を学びましたか？



夏休みに向けて ～きみはどう攻略するか～

一学期の期末考査が終わり、全国高校総体などの各種大会の壮行会も行われて、さあいよいよ待ちに待った球技大会のはずでしたが…。ご存じのように梅雨前線の停滞に伴う大雨で球技大会は中止を余儀なくされました。毎日のように大雨(土砂災害)警報が発令されたため、学校も7月7日から土日を挟み4日連続の臨時休業となりました。生徒、保護者、ご家族のみなさんも自宅付近の状況や避難指示などに気をもまれたことでしょう。それでも、少し先にあったはずの夏休みは、もうそこまで近づいてきています。特に1年生のみなさんには、**高校生になって初めての夏休みをどう過ごすか**をしっかりと考えてもらいたと思います。ゲームをするのに作戦(攻略法)が必要なと同様に、長い休みを効率的に過ごすにも作戦が必要です。

○長期休業に計画は必須!

約40日あるので**10日間または1週間は1つのスパン**として大きく分けて、やることを整理しておこう。
(最初の10日は1学期の復習や宿題、最後の1週間は2学期の予習など)

○週間プラン

予定は必ず狂いがち。1週間ごとに必ず**予備日**を設けて、予定外のことが起きてても早いうちに修正しよう。

○日課表 一日のルーティーンを守ろう!

いつもより時間に余裕があっても、だらだらは×。**起床・食事・勉強・入浴・就寝の時間は決めておこう。**

○計画表作成の手順

その1「1学期の振り返りを行う」 → できていたこと、できていなかったことの把握と補充。

その2「夏休み中の**【やることリスト】**を作る」

→ やるべきこと、やりたいことがたくさんあっても時間には限りがある。**「やること」をしぼる!**

その3「一日のルーティーン(日課表)を確認する」 → ある程度の時間のしぼりは必要。

その4「書き込み」 ① 勉強以外の**部活動やアルバイト、家族との予定**を書き込む。

② 上記以外で勉強に集中できる日がどれくらいあるかをチェック、**「やることリスト」で勉強する内容(「数学の宿題」など)を1日単位で書き込む。**

○計画表(カレンダー)を作成したら、見えるところに貼って「見える化」すること!

○「とにかくやってみる」

予定通りにいなくても、途中まででもやったことは決してムダではない!

○「がんばった自分にごほうびを！」

ひたすら頑張るのは大人でもつらいもの。「ここまでやり遂げたら〇〇を！」自分で決めてよし、家族と約束してもよし。自分へのごほうびは次のモチベーションにつながる!



高校生になって自分自身で考え決断する場面が増えてきたと思います。

この夏休みをどう過ごすかが、学年の後半や今後の高校生活に影響してくるのは間違いありません。さあ、みなさんは夏休みをどう攻略しますか?

ただし「ステイホームでゲーム三昧」ではなく、家の手伝いもいつも以上に励んでください。2学期にひとまわり成長したみなさんに会えることを楽しみにしています。

1年学年主任 笹川恭子



米工 MAKERS

米工通信 第34号

令和3年7月16日

鳥取県立米子工業高等学校

2年学年主任 宮下

1学期の保護者懇談が本日から始まります。みなさん1学期の学校生活はいかがでしたか？1学期を振り返る中でみなさんに伝えたいことを自分の高校の時を思い出しながら書いてみました。

自分の力を発揮するために



さて、1学期に皆さんが取り組んだ成果は自分の思うような形になったでしょうか？思い通りの成果ってなかなかすぐに出ないですよね？私の高校時代もそうでした。そんな高校2年の総体前に、部活動顧問の先生がミーティングの中で、「**物事に取り組む姿勢**」という内容で2つの話をされたので紹介します。まず、話の冒頭「**同じ作業を与えられて取り組んでも結果に差ができる。その差を生むのは何か？**」と問われました。みなさん分かりますか？その時は「**①自分の意思でやっている**」こと、「**②いい訳をしない**」ことについて話をされました。

①の「**自分の意思でやっている**」というのは、目標に向かって自分の意思で物事を判断し、自分の力が身につくような選択を自ら行っているということです。その当時、私の周りの友達を思い浮かべてみると、勉強に本気で取り組んでいる人や部活第一の人、趣味を突き詰めてやっている人など、やっていることは様々でしたが、強い意志がある人は、周りに流されない判断をしていると実感しました。また、自分の意思を持って取り組むと「**作業**」が「**仕事**」になるとも言われました。その違いは「**作業**」は**自分の意思が無くてもでき、マニュアルがあれば誰でもできます**。「**仕事**」は**作業に自分の思いが加わり、工夫や改善、周りの人も巻き込んでよい循環が生まれます。最終的には自分しかできない仕事となります**。ということでした。みなさんは自分の意思を持って物事に取り組んでいますか？

②の「**言い訳をしない**」というのは、「**言い訳すると少なからず嘘が交じる。その嘘は嘘でしか隠せない**。」そのサイクルを繰り返していくと無意識に「**嘘**」が口から出てきて、それが当たり前となり罪悪感さえ持たなくなる。というものでした。私はそれまで明確な目標を設定して取り組んだことがなく、何かするにも言い訳を言っていた自覚があったため、その言葉が心の中に強く響きました。「**言い訳を見つけて逃げていて本当にいいのか？**」、「**自分はどんな大人になれるだろう？**」など自分に問いかけたことを覚えています。少なくとも「**言い訳**」や「**できない理由**」を言うような大人にはなりたくない。「**自分の意思を持って努力してみよう**」と思った瞬間でした。「**できない理由を探す**」を「**できない理由を言わない**」に変え、「**できるようにするためにはどうするか**」を考えるようにして、それを継続していくうちに少しずつ結果に結びつき、自分に自信が持てるようになりました。そこまでくると不思議なもので次々とやれることが増え、自分の求めていた理想に近づいていき、今の私があります。本当にあの時気付けてよかったと思います。みなさんはどんな大人になりたいですか？



今回、思ったとおりの結果が出なかった人もいるかもしれませんが、私が伝えたいのは「**自分の意思を持って継続的に取り組み、言い訳をしない**」ことが大切だということです。ただなんとなく流されてこの1学期が終わってしまった人はとてももったいない！！この2年生という学年は将来の進路を決定する準備ができる最終学年です。もしそのような人がいるなら良かったところ、改善した方がよいところを懇談の中で再確認し、有意義な2学期を迎える準備をしましょう。みなさんは将来を担う日本の宝です。より良い社会を「仕事」で循環させる社会人に成長していけるよう2学期も応援していきます。



先週は、孔子の言葉で「過ちを改めざる これを過ちという」を紹介しました。世の中で活躍している人の多くが失敗をたくさんしています。

失敗は成功のもと

「千三つ (せんみつ)」という言葉があります。新しいことに挑戦して上手くいくのは1000のうち3つぐらいということです。ですから、成功している人はそれまでにかなりの失敗をしていることになります。

有名な発明家エジソンは京都の竹をフィラメントに使用して電球を発明しました。エジソンは電球を発明するまでに試行した回数はおおよそ 20,000 回だったそうです。つまり、20,000 回の失敗をしたということですよね。ところが、エジソンは、「失敗したのではない。うまく行かない方法を見つけただけだ」と言ったそうです。エジソンは失敗を失敗とは認識していません。むしろ「失敗は上手くいかない方法を見つけた成功なのだ」と考えていたのです。

このように、成功の前には失敗と思われる事象がたくさんあることがわかりますね。みなさんはこのことを「失敗は成功のもと」ということわざで学んでいることと思います。

みなさんが自転車に乗れるようになったのは、自転車に乗ることに挑戦して、何度も転んだ経験から上手くいかない条件に気づき、それをもとにして上手く乗ることができる方法を見つけたからでしょう。スキーができるようになったのも、スキーに挑戦して、何度も転んでは上手くいかない条件に気づき、上手くすべることができるようになったからでしょう。

これから長い夏休みに入ります。貴重な時間を活用していろいろなことに挑戦してください。

しかし、一つだけ注意して欲しいことがあります。それは、このような「良い失敗」がある一方、「悪い失敗」もあるということです。悪い失敗とは、人の命や財産を奪ったり、人権や人格を損なう失敗です。これは絶対に許されません。

目の前の事象が悪い失敗だと気づいた時は、孔子の「過ちを改めざる これを過ちという」を思い出してください。そして、他者に対して迷惑をかけたのなら、謝るべきところは謝り正しく修正してください。また、自分自身の命や財産、人格などに危険を感じたのなら一目散に逃げることも大切です。

危険な雰囲気を感じているときは、もしもに備えて対応するので悪い失敗は起こりにくいはずですが、むしろ、安心しているときにこそ悪い失敗が起こりやすいのです。

自身の安全と他者の安全を意識しながら、夏休みにはいろいろな体験をして、成長した姿で2学期の始業式には登校することを期待しています。

校長 松川 明義

